

寒い冬はとくに気をつけたい関節疾患

犬種	割合
ボストンテリア	4.53%
ポメラニアン	4.08%
パピヨン	3.80%
ヨークシャー・テリア	2.67%
チワワ	2.32%
マルチーズ	2.23%
プードル・トイ	2.05%
ミニチュア・ピンシャー	1.98%
キャバリア・キング・ チャールズ・スパニエル	1.94%
フレンチ・ブルドッグ	1.37%
柴犬	1.08%
パグ	0.82%
混血犬(体重 10kg 未満)	0.71%
ダックスフンド・ミニチュア	0.48%
シー・ズー	0.27%

犬種	割合
ダックスフンド・ミニチュア	0.63%
ビーグル	0.58%
キャバリア・キング・ チャールズ・スパニエル	0.56%
フレンチ・ブルドッグ	0.55%
パグ	0.47%
アメリカン・コッカ・スパニエル	0.46%
マルチーズ	0.45%
シー・ズー	0.34%
ポメラニアン	0.31%
ヨークシャー・テリア	0.26%
ウエルシュ・コーギー・ペンブローク	0.25%
ラブラドル・レトリバー	0.21%
パピヨン	0.20%
ゴールデン・レトリバー	0.20%
チワワ	0.15%

※ 調査方法 : 2004 年の給付金請求データをもとに算出 (n=102,344)

※ 計算方法 : 上記2疾患で通院した犬の頭数 / 犬種別加入頭数 × 100%

「椎間板ヘルニア」と「膝蓋骨脱臼/亜脱臼(パテラ)」の請求割合が多い犬種について調査を行ったところ、上の表のような結果となった。

骨関節疾患は、先天的素因(遺伝)が大きい。さらに寒いこの時期は、冷えによる血行不良、また食べすぎによる増量で関節に負担がかかりやすい。運動不足になりがちだからといって、無理に長時間散歩をさせたり、硬いフローリングやコンクリートの上で遊ばせると、思わぬ事故や怪我につながりかねない。飼い主は、犬種の特徴をしっかりと理解したうえで、適度な運動を心がけたい。

また、これらの骨関節疾患は、無理な繁殖が繰り返されることにより、発症率が上がるといわれている。「この子の子どもが見たい」「一度は産ませてあげたい」「人気犬種だから」と

いう人間側の思いだけで、わが子やその子どもに大きな負担をかけることは絶対に避けたい。